

「研修会等名称」

法政大学 第10回FDフォーラム「大人数授業での工夫」

場所：法政大学

期間：2015年11月14日

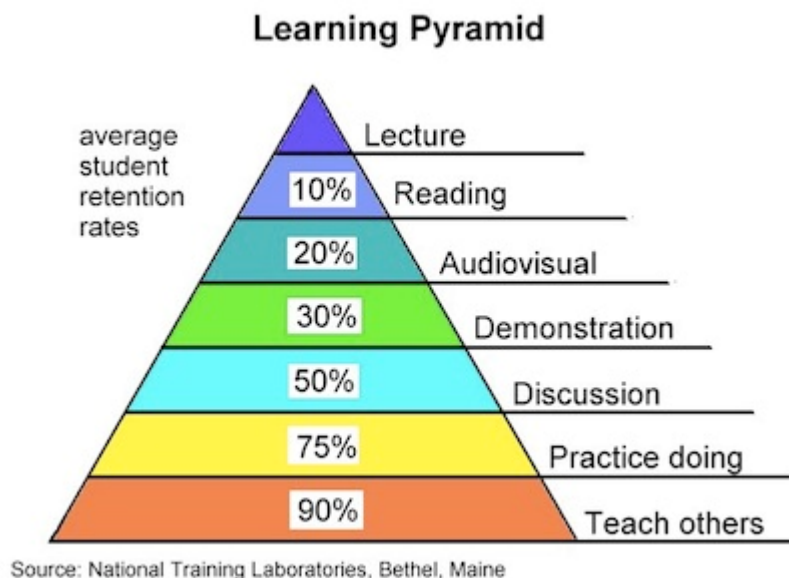
1. 研修の内容

「大人数授業での工夫」と題して基調講演と2名の教員と1名の事務職員による事例報告、パネルディスカッションから成るシンポジウムに参加した。

基調講演は、富山大学 橋本勝先生による報告であった。橋本先生は「橋本メソッド」ともよばれる独自の手法を確立し、ライトアクティブラーニングと定義づけられた。具体的には、200名以上の大人数講義でグループを作らせ、最初に話しやすい話題で議論させ、徐々に論題を深化させるというスタイルである。それだけ大人数となっても教員からのフィードバックを欠かさず、学生が主体的に学ぶよう工夫されているとのことであった。また、学生や市民にもFDに参加してもらってこそ意味があるとの講演だった。

第1報告は追手門学院大学 梅村先生による報告であった。不本意入学の学生に本学で学ぶことの意義を独自科目の導入によって伝え、自信を回復させる取り組みを行っていることを紹介された。また、授業評価アンケートで大人数講義にもかかわらず、評価の高い先生の授業を言語学的に解析したところ、特定の型があるわけではないこと、必ずしもアクティブ・ラーニング型ではないことが明らかになったとのことだった。意外に従来の講義形式であっても評価が高い授業も多いとの報告だった。

第2報告は、日本大学 佐渡友先生による報告であった。学習のピラミッド（下図参照）を提示され、能動的学修の定着率が講義型より高いことを根拠に、大学教育では、「初年次教育」「反転授業」「能動的学修」を進めることが重要との報告があった。



ご自身の授業実践をお話いただき、教員はファシリテーターとしての役割に徹して授業運営をすべきであるとの報告があった。

第3報告として、法政大学 小金井事務部学務課 細田課長より「大人数授業をよりアクティブにするために～事務職員にできること」と題して報告があった。法政大学でも初年次教育として、リレー講義「法政学への招待」として選択科目を全学部対象に開講した際に、各担当者の先生がやりたいであろう事柄を先読みして、提案することで、単なるリレー講義ではない授業とすることができたとのことであった。

後半のパネルディスカッションでは、橋本先生に「フリーライダー」学生の評価をどのようにしているか、梅村先生に授業評価の高い教授法は個人の特性によるものなのか、佐渡友先生に反転授業を行うのは教員の負担が重過ぎないか、フロアから質問があった。

このシンポジウムでも、橋本先生の基調講演において参加者もアクティブ・ラーニングを体験するための仕組みが盛り込まれており、会場は大いに盛り上がった。

2. 研修の成果

3組の講演とシンポジウム全体から、次のことを学んだ。まず、大人数であってもアクティブ・ラーニングは可能であること、次に、アクティブ・ラーニングだけが万能のツールではないということ、最後に他大学・他地域の事例や意見・情報交換が互いに良い効果をもたらすという点である。

3. 授業への研修成果の反映状況

講義形式のよさとアクティブ・ラーニングの楽しさを複合させ、担当している大人数授業で実践してみたいと考えている。

また、他大学の先生方の事例や図書館や情報メディアセンターの方とも連携して、受講生が能動的に学習に取り組めるような学習支援に努めたい。